

津田塾大学 数学・計算機科学研究所報

4

## 近現代数学史

1 9 9 2

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

## は　じ　め　に

この号は、1991年11月9日、10日に津田塾大学5号館で開かれた近現代数学史シンポジウム（津田塾大学数学・計算機科学研究所主催）の記録である。

講演者全員に原稿をお願いしたが、浪川幸彦氏は御多忙と外国出張のため、これ迄に講演「多様体論的幾何学による数学の幾何学化」の原稿が頂けなかったので次回に期待することとし、それ以外の方々の記録を刊行することとした。編集上の不手際については、深くおわびする次第である。

1992年9月

津田塾大学

杉　浦　光　夫

## 目 次

黒川 信重	三角関数の一般化をめぐって	1
笠原 乾吉	クラインのモデュラー方程式	2 6
高瀬 正仁	アーベル積分の等分と変換に関するヤコビと エルミートの理論 ーヤコビ関数論ノート(I)ー	3 3
三宅 克哉	アルティンの相互法則について	4 4
足立 恒雄	類体論、特に一般相互法則の証明について	5 4
杉浦 光夫	ワイルのリー群論	6 8
飛田 武幸	Volterra-Hadamard-Frechet-Levy ー古典関数解析がホワイティイズ解析に 与えたインパクトー	9 8
鹿野 健	一様分布の小史	1 1 4
中根美知代	ガリレオの連続量概念	1 2 3
水谷 由美	19世紀における論証的規範の転換 ーLacreyxをCase studyとしてー	1 3 2
赤堀 庸子	デーデキントにおける構造概念の形成	1 4 4